

ラミネート層のある複層ビニル床タイル（ラミネートホモジ）のメンテナンスレポート

※UVコーティングなど表面加工されたビニル床タイルは除く（UVコーティング加工ビニル系床材のメンテナンスレポートをご参照ください。）

床材の性質

- 比較的弾力性がある。
- 耐洗剤性に優れる。
- 表面が平滑で光沢感があり、吸い込みはほとんどない。
- 樹脂ワックスの密着性に劣る。
- 施工後しばらくの間は床材からの可塑剤の移行が多く、汚れやヒールマークが付きやすい。

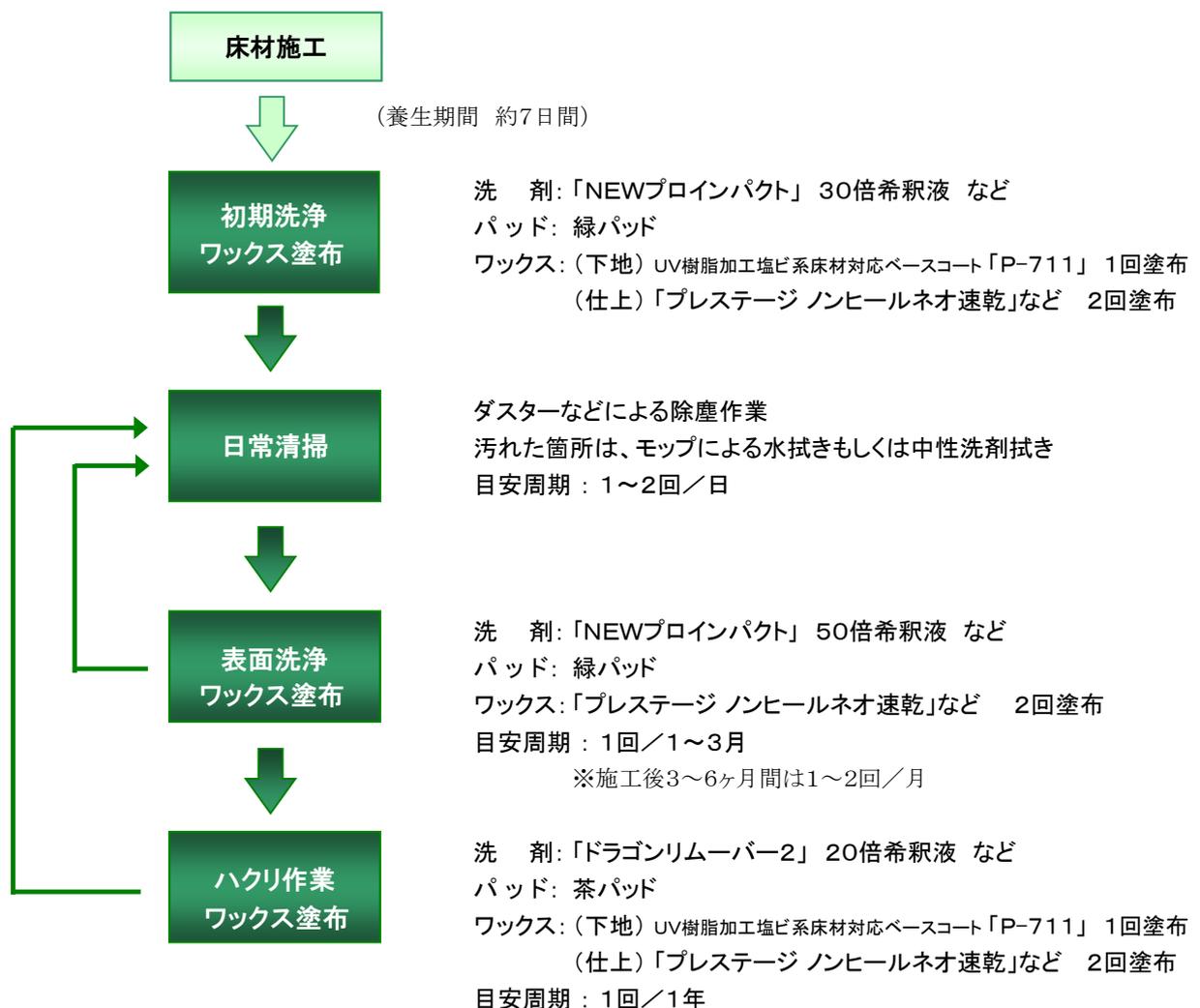
メンテナンスポイント&注意点

ラミネート層のある複層ビニル床タイルは、床材表層を透明の塩化ビニル層で覆われた床材のため、吸い込みがほとんどなく、床材からの可塑剤の表面移行が多いことから、塗布時に樹脂ワックスのハジキが起きたり、樹脂ワックスの密着不良が起きやすい床材です。そのため、初期洗浄の際は洗剤の希釈を多少濃くし、多少粗めのパッドを用い丁寧に洗浄しなければなりません。

また、床材施工後しばらくの間（3～6ヶ月間）は、移行した可塑剤により樹脂ワックス皮膜が軟化し、汚れやヒールマークが付きやすくなるため、表面洗浄の周期を短くし、汚れやヒールマークを取り除く必要があります。

洗剤やハクリ剤の選定においては特に制限はありませんが、樹脂ワックスにおいては、必ず密着性に優れた専用の下剤剤を選定しなければなりません。また、ヒールマークが付きやすく目立ちやすいため、仕上げ用樹脂ワックスとしては、耐ヒールマーク性に優れたタイプの選定が適します。

メンテナンスサイクル例



メンテナンスポイントおよび作業方法

初期洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 床材施工後の養生期間を置いてから、本作業を行います。
- 床材表面に床材施工に用いた接着剤跡がある場合は、きちんと除去します。
- 引き渡し清掃などで既にワックスが塗布されている場合は、密着テストを行い、もし密着していない場合は、ハクリ作業を行ってからワックスを塗布します。
- 洗浄の際は、洗剤の希釈を多少濃くし、多少粗めのパッドを用い丁寧に洗浄します。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- 下地に密着性に優れた下地用樹脂ワックス、仕上げに耐ヒールマーク性に優れた樹脂ワックスを塗布します。

作業手順



日常清掃

ポイント

- 帯電モップは帯電剤が床面に移り、汚れの原因となることがあるので使用は避けます。
- ヒールマーク汚れは、モップなどで擦り落とします。
- 洗剤を使用する場合は、樹脂ワックスに影響のない中性洗剤を使用します。
- 雨天日は、雨水による汚れや滑りによる転倒防止のため、雨天時用マットを設置し、持ち込まれた雨水や土砂は早めに取り除きます。
- 広い面積の現場は、自動床洗浄機による洗浄が効果的です。

作業手順

除塵・粗ゴミ除去

＜ダスターや自在ホウキ、チリトリを使用＞

- ・ダスター等を用い、除塵作業を行います。

モップ拭き

＜水拭き用モップ、必要に応じ中性洗剤（「NEWプロインパクト中性」など）を使用＞

- ・汚れた箇所やヒールマーク汚れは、モップで拭き取ります。
- *油汚れが多い現場は、中性洗剤（「NEWプロインパクト中性」50倍希釈）を使用します。

表面洗浄・ワックス塗布作業

ポイント

- 光沢の低下や汚れが目立ってきたら、本作業を行います。
- 洗剤を希釈する際は、計量カップなどを用い正しく希釈します。
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗いします。
- ポリッシャー洗浄でも落ちないヒールマーク汚れは、ハンドパッドで擦り落とします。
- 床表面が平らでなく不陸がある場合は、ポリッシャーで洗浄する際、横方向だけでなく、縦方向にも掛けます。
- 巾木に付着した洗浄汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。

作業手順



ハクリ・ワックス塗布作業

ポイント

- 表面洗浄作業では、汚れが落ちにくくなったら、本作業を行います。
- ハクリ作業を行わない場所との境や、什器下に汚水が流れ込んでしまう場所は、養生マスキで養生します。
- ハクリ剤は、乾かないよう多めに塗布します。(乾いたら再塗布します。)
- ポリッシャーが当たらない壁際などは、ハンドパッドで擦り洗いします。
- ハクリ後(ポリッシャーがけ後)の汚水は、乾く前に素早く回収します。
- ハクリ後(汚水回収後)に水洗浄を行うと、ハクリ剤成分を完全に除去、ワックスの仕上がりが良くなります。
- 巾木に付着したハクリ汚水は、乾く前にタオルで水拭きし、拭き取ります。
- ワックスを塗り重ねる際は、十分に乾燥させてから(ベタツキ感がなくなってから)行います。
- 下地に密着性に優れた下地用樹脂ワックス、仕上げに耐ヒールマーク性に優れた樹脂ワックスを塗布します。

作業手順

